

2012年6月16日

東海村村長 村上達也 様

# 貴自治体首長への表敬訪問のお願い

## ピースサイクル2012全国ネットワーク・東海村行動

紫陽花が美しさを増す梅雨時となりましたが、貴自治体におかれましては、住民が安心・安全・平和に住み続けられるまちづくりをめざして、日夜ご奮闘のことと思います。

私たちは、全国を自転車をつないで広島・長崎・六ヶ所まで走る反核・平和運動のピースサイクルです。ピースサイクルが28年前にスタートした初期には、貴自治体への表敬訪問をさせていただいたことがあります。

原発の再稼働をめぐる動きが、政府や電力会社などによって、周辺自治体や市民の理解も得ない中で、強行されようとしています。原発が停まれば、これまで推進してきた核燃料サイクル事業も全面的に見直されざるを得ません。

このような情勢の中で、今年の六ヶ所ピースサイクルがスタートします。今年は、8月10日、東海村を出発し、9日間をかけて六ヶ所村に到着の予定です。

聞くところによりますと、3・11の際、東海第二原発では、原子炉が自動停止。その後2日間外部からの電源を失い、非常用ディーゼル発電機3台のうち1台は津波の影響で動かなかったとのことです。6.1メートルの防護壁に5.4メートルの津波が押し寄せ、後70センチほど高い津波きたらだったらどうなったのか、“危機一髪”の状況だったとのこと。

福島第一原発から半径20キロメートル圏内は警戒区域（立入禁止）とされ、住民は避難生活を余儀なくされています。東海第二原発から20キロメートル圏内には福島の10倍の71万人が暮らしており、原発周辺地域では国内一の人口密集地です。また、東海第二原発は運転開始から32年が経過し、老朽化によるトラブルも頻繁に起きているとのこと。

これらの情報が明らかになるにつれ、茨城県民の中で、再稼働中止、廃炉を求める運動が広がり、今年4月までに17万筆の廃炉署名が県知事に提出されています。さらに各議会で廃炉を求める意見書が提出され、多くの議会で採択されています。この動きは、千葉県内にも波及し、関東で唯一の東海第二原発の廃炉を求める運動が急速に拡大しています。

さらに、村上村長の「脱原発宣言」や4月末に結成された「脱原発をめざす首長会議」参加など自治体の意思表示が進められています。12年前のJCO臨界事故以降、取り組まれてきた『原発問題』への取り組みを少しでも理解し、現状での対策と今後の取り組みをお聞かせいただきたいと思います。そのために、下記の日程で貴自治体を訪問させていただきたいと思います。ご多忙のところ恐縮ですが受け入れ方、よろしくお願いします。

**訪問日時 2012年8月10日（金）午前11時から12時頃**

**私たちが質問したい事項は、以下の5点です。**

- ① 12年前のJCO臨界事故以降、住民の健康診断はどのように進められてきましたか。風評被害に如何に対応されたのでしょうか。
- ② 3・11 東日本大地震の際に、東海第二原発で起きていた“危機一髪”の状況は、いつ頃に県や事業者から貴自治体に情報提供されたのでしょうか。その情報提供は妥当だと思われませんか。
- ③ 村長は「脱原発宣言」をされたと報道されましたが、その想いの契機はいつ頃からでしょうか。「脱原発宣言」をされ、「脱原発をめざす首長会議」に参加されましたが、自治体運営において障害はありませんか。
- ④ 東海第二原発から30キロ圏内で93万人を越える住民が生活しており、原発周辺地域では国内一の人口密集地となっています。原発事故の防災計画を立てても避難することができない状況ではないでしょうか。
- ⑤ 原発依存社会から、脱原発社会に転換する道筋をどのように考えられていますか。エネルギー政策の転換だけでなく、経済・農業・地域社会をどのように作り変えて行くのか、その方向性・ビジョンがありましたらご紹介ください。

## また、2点の要請事項があります。

- ① 質問事項について、訪問時間の関係上、文章化し、20部ほど用意してくだされば幸いです。
- ②、ピースサイクルでは、ピースメッセージをお預かりし、相手先にお届けする取り組みをしています。今年のピースサイクルとして取り組んでおりますのは、・青森県知事宛・六ヶ所村長宛、当ピースサイクル宛です。全部またはいずれでもけっこうですが、必ず、首長のピースメッセージをご用意ください。

<連絡先> ピースサイクル 2012 全国ネットワーク・東海村行動  
T & F 047-360-6069 携帯 090-4606-9634 (吉野)